

総合計画審議会委員の意見・市民懇談会等での市民の意見のまとめ

章	節	施策	審議会委員の意見	グループインタビュー(25～44歳対象)・市民懇談会での市民の意見	市民アンケートで「課題」として挙げられた意見(5件以上のもの)	
第1章 ともに支え合う「共生のまちやわた」	第1節 共に生きる社会	① 人権・平和の尊重	・外国人子ども会・スポーツ・料理教室等を通じた交流会等の参加者数を指標にしては、役割や活躍する場をつくり、その人が持つ力を引き出す工夫も必要。	・外国を理解するイベントを開催してはどうか。	・あまり外国人を見かけない(9件)	
			・外国人のニーズ調査や地域活動への参加度、帰属意識等を調査できないか。		・外国人と交流する機会が少ない(6件)	
			・外国人にとっても「自分たちのまちである」という意識を高めるためのアプローチやコーディネーターが必要。		・多文化理解が進んでいない(5件)	
			・「人権啓発活動の参加者数」は、具体的な活動の参加者数を記載すべき。			
			・LGBTの話を盛り込む必要があるのではないか。			
		・戦争体験談記録集はもっと読んでもらえるような工夫が必要。(子どもたちが読んだ感想をフィードバックするようにするなど)				
		② 男女共同参画の推進	・事業所における「男性従業員の育児休暇取得率」「管理・監督職女性比率」は企業規模により異なるため、分析の工夫が必要。			
			・自治組織やPTA等のコミュニティ組織で女性の活躍状況を評価できないか。			
	・「配偶者のいる男性が家事に費やしている時間」は、年代による分析が必要。					
	③ 障がいのあるなしにかかわらず地域で安心して暮らせる社会の推進	・配偶者のいる男性が家事に費やしている時間」は、年代による分析が必要。				
		・審議会委員の女性の比率は思い切って50%にしてはどうか。				
	④ 地域の絆と支え合いによる共生社会の推進	・結婚の促進には、若い人が一緒に何かをし、対話を通じ心が動く場面が必要。	・まちコン、八幡市を知るツアーなど人が出会うイベントを行う。イベントの企画段階から若い人にも参加してもらおう。うまくいけばカップルになるかもしれない。			
		・障がいの者のQOLの視点を盛り込む必要がある。				
	第2節 協働による地域づくり	① コミュニティ活動による地域づくりの推進	・リーダーやインストラクターとなる人材の育成のために、参画しやすい雰囲気・事例づくりや情報公開・発信が必要。	・地域での見守りや交流の場が必要。	・生活保護制度を適正に運用してほしい(21件)	
			・リーダーやインストラクターとなる人材の育成のために、参画しやすい雰囲気・事例づくりや情報公開・発信が必要。	・個人情報保護意識のため、共助が図りにくい。		
			・自治会に加入するメリットやインセンティブを考える必要がある。地域特有の課題というものはあるので、自治会というきっちりとした組織でなくとも、何らかの活動が必要である。	・自治会に加入しない人が多い。また、近所の住民やとくに若者・子どもがわからないのが現状。地域行事への参加促進や住民交流の場の整備、広報版の整備など、地域の絆を強くする取組が必要。	・コミュニティ活動が活発でない(8件)	
・自治会、老人クラブ、PTA、社協、文化サークルなどを再構成(一本化)し、機能別・地域別等により下部組織の境界を再定義・再区分すべき。			・地域によっては、祭りをはじめ自治会活動が活発であり、高齢者の参加機会も多く、近隣関係も良いと感じる。			
・高齢の人でも障がいのある人でも自治会の役員を務められるようなサポート制度があると良いのではないか。また、自治会は何をどこまでやるべきかという指針が必要。			・リーダーとなる人材が不足している。イベント開催への補助金を充実してもらいたい。			
② 「新しい公共」の担い手づくり		・自治組織の高齢化に伴う実態調査が必要ではないか。	・町内会対抗運動会等、住民の交流がある。			
		・自治会、老人クラブ、PTA、社協、文化サークルなどを再構成(一本化)し、機能別・地域別等により下部組織の境界を再定義・再区分すべき。	・自治会活動は「つかず、離れず」程度の参加としたい。			
		・地域のつながりを深めるといよりも、地域のつながりが広がり、暮らしの安心感が高まるといった表現の方が良いのではないか。	・地域活動に参加してみたいが、きっかけがない。			
		・「暮らしの安心」感をどうやって計るのかを考える必要がある。単に加入率・組織率といったものよりは、地域でのイベントの数などの方が指標になるのではないか。				
		・元気な高齢者の活躍の場を提供すべき。(高齢者の経験を子どもに伝えるなど)	・退職者の年齢層の参加促進が必要。			
② 「新しい公共」の担い手づくり	・積極的に人材を発掘したり、若い人を育成したりする活動を盛り立てるべき。	・若者が集まる拠点が必要。				
	・隠れた人材を活用する組織として「八幡市民大学」を創設し、ボランティア講師による学部ごとの研究プロジェクトを立ち上げる。	・市民による活動が促進されるよう、事例情報の提供を行ってはどうか。				
	・八幡市民大学の中に「よろず情報センター」を設置し、市民や外国人を含む観光客等からの問合せに講師が対応する。	・まちづくり組織が必要。				
	・ボランティアの活動促進に向け、活動の対価として地元商店で使用可能な「地域ポイント制度」を採用する。					
	・生涯学習の充実から担い手をつくっていくための連携方法について検討すべき。講座の修了者が「推進員」になるなど考えられないか。					
	・市役所等に人が自然と集まってくるような仕組みが必要。(花を植える等)					

総合計画審議会委員の意見・市民懇談会等での市民の意見のまとめ

章	節	施策	審議会委員の意見	グループインタビュー(25～44歳対象)・市民懇談会での市民の意見	市民アンケートで「課題」として挙げられた意見(5件以上のもの)
第2章 子どもが輝く「未来のまちやわた」	第1節 子育て支援	① 妊娠・出産・育児サポート	・八幡市は子育てに力を入れている。ひとり親家庭にとっても育てやすい。	・八幡市は子育てしやすいまちであると思う。	
			・子育て施策が良いということのアピールが不足している。情報発信方法の工夫を。	・子育て支援施策の周知が十分に図られていない。もっとアピールすべき。	
			・子育てサークル活動などもあるが知られていない。市の支援が必要。	・出産祝い金やアプリ・SNSなどでの子育て支援情報提供など、支援策の充実を。	
			・子どもの貧困は親の貧困であり、連鎖を断つためにどうサポートしていくかが重要。	・子どもの貧困対策が課題。	
			・すすすくの杜は車がないとアクセスが限られる。市役所周辺にも施設がほしい。	・すすすくの杜のさらなる活用促進が課題。赤ちゃんスペースが仕切りで分けられているのは安心。保育士や他のお母さんに様々なことを相談できて安心。	
			・孤立する家庭に対し、どういったネットワークを充実させていくべきか検討が必要。	・「そよかぜ」は様々な月齢の子どもが来ているので刺激になってよい。	
				・家庭教育の改善が必要。	
				・年齢の離れたお母さんとママ友になれるかが不安。	
	② 就学前教育・保育の充実	・待機児童ゼロはすばらしい。ぜひとも維持を。	・保育園が充実し、待機児童がない。		
		・八幡市は保育園の教育レベルが昔から高い。クオリティの高さのPRも必要。	・保育園児が少なくなっている。		
		・小さいときから対話力を上げるため、まずは先生の対話力を上げる研修が必要。	・駅前に保育園を整備してほしい。		
		・花や野菜の栽培などの体験も大切。	・自宅の近くで保育所・幼稚園に子どもを預けられると良い。		
		・八幡市は保育園と幼稚園のバランスもよく、子育てしやすい施策をしている。部署間の連携が良い。			
第2節 子どもの生きる力の育成	① 学校教育	・親や子供の思いを吸い上げられる機関(学校支援地域本部やPTA)の役割が十分果たされる環境の充実と役割の周知が必要。	・登下校の見守りが必要である。	・学力向上が必要である(15件)	
		・(就学前児への施策が良くて)小中学校の学力に課題があり引越す人が多い。学力向上を。	・学力のある小学生は、市外の私立中学校に行ってしまう。		
		・学力下位層をどう引き上げるかが課題。それには学校で学習したことの復習が必要。	・学力の目標を示し、学校の教育内容の充実やスタディサポートの充実が必要。		
		・教員のケアや、教員の質を上げていくということも必要ではないか。	・教員の意識向上が必要。		
			・地域によって、学校が近かったり遠かったり、また学校の規模が違ったりする。		
			・学校に苦情を言いすぎないことや親同士の話し合いの場が必要。		
	② 児童・青少年の健全育成	・人づくりには、高齢者と子ども、障がいをもった方と子どもなどの様々な人と直接出会うことのできる機会をつくる必要がある。	・子どもと学生、高齢者との交流機会が必要。あいさつや、必要なときには叱ること、行事への参加促進など、地域の子どもと大人、親どうしが接する機会の充実が必要。	・夜間にバイクの暴走行為がみられる(8件)	
		・学力だけでない、人としての賢さを育てられることを目標としたお金の使い方を。	・公園など屋外で子どもが遊べる場所の充実が必要。近所の公園は小さく、雑草が生えており、遊具も少ない。	・夜間に散歩する青少年を見かける(5件)	
		・八幡市のオリジナルな文言で、「こんな子どもを育てたい」という思いの伝わってくるものを考えると良いのではないか。また、「八幡市で育ったから今の自分がある」と言ってもらえるような独自性を織り込む必要がある。	・放課後児童健全育成事業の充実や子ども会の活性化をはじめ、子どもの居場所の確保が必要。		
		・学力下位層をどう引き上げるかが課題だが、それには学校で学習したことの復習が必要。そのための家庭環境を考える必要がある。	・子どもの見守りが必要。子どもを連れていっていると声をかけてもらえる。		
			・夜に中高生がコンビニ等でたむろしている。		
			・やさしい子どもに育ってほしい。		
	・習い事をさせられるような教室が近くに少ない。				
	・豊かな心や考える力、対話する力、体力・得意分野の向上に向け、様々な行事やイベントなどの経験機会(自然・農業体験、ものづくり体験、ボランティア体験など)の提供が必要。				

総合計画審議会委員の意見・市民懇談会等での市民の意見のまとめ

章	節	施策	審議会委員の意見	グループインタビュー(25～44歳対象)・市民懇談会での市民の意見	市民アンケートで「課題」として挙げられた意見(5件以上のもの)
第3章 誰もが「健康」で「幸せ」な「健幸のまちやわた」	第1節 健康で幸せのまちづくり	① 健康づくり習慣の定着促進	・健康マイレージ事業は利用者が少なく周知も弱いと感じる。マイレージ取得までのハードルを下げ、働き盛り世代も参加しやすいようにしてはどうか。	・健康イベントへのアクセスが悪く、情報も足りない。マイレージ事業は改善が必要。	
			・指標として、医療機関から提供を受けた疾病者数を用いることはできないか。	・検診を充実したり受けやすくしたりしてはどうか。	
			・地産地消の話は健康づくりの議論とうまく噛み合っていない。	・食育が必要。	
			・健康づくりの重要性は、財政面の危機感を強調すると良い。		
		② 地域のつながりを生かした健幸づくり	・地域での少人数によるラジオ体操を継続的に実施することで、地域コミュニティの活性化と健康寿命の延伸に資する。市街地の公園でラジオ体操をすると苦情が出たりするので、市からそうしたコミュニティへの後押しをしてほしい。	・外出する意識をもつこと、交流の場をつくること、地域で健康づくりに取り組む姿勢が大事である。	
			・市民が気軽に参加しやすいウォーキングネットワークをつくってはどうか。	・魅力的な外出目的を増やすことが大事。	
	③ 健幸につながるまちの基盤づくり	・コミュニティバスなど公共交通の施策が入っていることに違和感がある。	・公共交通を充実してほしい。最終バスの時間が早い。美濃山地域の市役所や駅へのアクセスの向上が必要。	・バスの運行本数が少なく不便である(20件)、最終バスの時間が早い(5件)	
		・ウォーキングコースの整備需要は高く、見える施策として検討価値があると感じる。	・コミバスと路線バスのルートが重なっている。路線バスがないエリアで運行してほしい。	・バスが遅れて困る(6件)	
		・閑散としている公園が多いように感じる。閉鎖も含めて検討すべき。	・夜道が暗い。また、街路樹が大きくなりすぎている。坂道が多く自動車がないと暮らすのが大変。歩道の整備が必要。楽しく歩ける道にする。自転車に乗りやすくする。	・公共交通が不便である(5件)	
		・公園の禁止事項(ボール遊び等)が多すぎる。幅広い世代が楽しめるよう外遊び・運動のできる公園の利用条件の整理をしてほしい。身近なところで運動ができる環境を市民と市が協働でつくっていけるようにすべき。	・スポーツ施設が遠い。	・バス路線を充実してほしい(5件)、美濃山地区と市役所を結ぶ路線がなくて不便(12件)	
		・体育協会の活動の場をつなぐネットワークの整備を考えてはどうか。		・スポーツ施設が遠いため利用しにくい(7件)、生涯にわたってスポーツできる環境がほしい(5件)	
				・歩道の段差を解消してほしい(22件)、歩道を整備してほしい(11件)	
第2節 医療・介護の基盤づくり	① 医療基盤の充実	・救急医療機関が近くに少なく不安、という声をよく聞く。第二岡本病院や宇治徳洲会病院に運ばれることも多く、救急車での移動時間が長い点も不安要素。他市と連携した救急体制も良いが、より身近な病院で受診できるようになると良い。	・医療機関の情報がほしい。近くに病院が少ない。電話で相談したい。病院の診療時間を延ばしてほしい。病院間で連携してほしい。	・救急医療を充実させてほしい(10件)	
			・子育て支援医療制度があるのは良い。	・大きな病院が少ない(7件)	
			・医療費支援を充実してほしい。医療費が高い。		
			・在宅医療を充実してはどうか。		
	② 福祉・介護サービスの充実		・国民健康保険の費用が高い。		
		・介護施設は他市等との比較材料がなく、利便性が不明確。PRが必要。	・八幡市は福祉が充実している。		
			・身体障害者3級への支援があることは良い。		

総合計画審議会委員の意見・市民懇談会等での市民の意見のまとめ

章	節	施策	審議会委員の意見	グループインタビュー(25～44歳対象)・市民懇談会での市民の意見	市民アンケートで「課題」として挙げられた意見(5件以上のもの)
第4章 自然と歴史と文化が織りなす「観幸のまち やわた」	第1節 シビックプライドの醸成	① 文化芸術活動の振興	・文化振興に関連する団体に対しては、実態審査のうえで文化施設利用料の優遇措置をとってはどうか。	・文化施設を入場無料にしてほしい。	
			・子どもへの働きかけが必要ではないか。	・学校での無料公演があるのは良い。	
			・史跡、名勝に指定されていない隠れた史跡等の保存・再生も今のうちに着手する必要がある。	・文化資源をもっとうまく活用できないか。埋蔵文化財の展示施設をつくってはどうか。	
			・雄大な三川合流域とさくらであい館の活用について記載が必要。	・趣味・特技の発表機会があると良い。	
			・自治体単位で継続が困難になっている「盆踊り」「地蔵盆」「どんと焼き」などを市の行事としてはどうか。	・文化センターで様々な文化的催しが行われていて良い。	
			・ふるさと学習館を整備拡充し「ふるさと博物館」にすれば、新たな観光資源となる。		
		② お茶のある幸せの風景の創出	・八幡市は「お茶の京都」とうまく連携できていないように感じる。周辺地域との連携活動を積極的に行う必要がある。	・松花堂のお茶会などがあるのは良い。 ・子どもに茶道を教えているのは良い。	
		③ 豊かな自然・歴史との触れ合い	・「豊かな自然・歴史との触れ合い」と現状・課題が合っていないのではないか。	・キャンプ場をつくるか、山と川の利用をしてはどうか。竹林は守るべき。河川公園を整備してはどうか。展望台をつくってはどうか。レクセンへのアクセス向上が課題。	・公園の管理が不十分である(18件)
			・エジソン、二宮忠八、松花堂昭乗など偉人について記載すべき。	・マンガで歴史を伝えてはどうか。	・河川や堤防がきれいでない(10件)
			・子どもへの働きかけが必要ではないか。	・歴史を子どもにもっと伝えていくべき。小学校で地域の歴史や伝統を学べると良い。	・開発により自然が減っている(5件)
	・公園の芝生管理の負担が重く、スプリンクラーの整備等負担軽減策が必要。		・三川合流、木津川、流れ橋、背割堤、放生川、男山レクセン、釣り堀、梨狩り、正法寺、八角堂、飛行神社などが魅力。眺望が良い。ホテルの放流イベントがあったりBBQできる場所があるのは良い。石碑の手入れができていない。	・公園が利用されていない(5件)	
	・地域の高齢者から歴史を聞く機会や取組があれば、自分の地域への理解が進み、愛着が醸成されるのではないか。		・外来種がいることは課題。		
	・イベント等は、市民主体となって進めていく活動を、行政が後押ししていくべき。				
	第2節 幸せと出逢う観光まちづくり	① 「観幸のまち やわた」ブランドの構築	・農産物、食育は観光ブランドの構築には馴染まないのではないか。	・魅力の情報発信が足りない。知名度アップをしてほしい。	・八幡市のことが知られていない(13件)
			・「お亀せんべい」「八幡巻」「岩田帯」「八幡黒」等の地元名物を復活させてほしい。	・特産品開発をしてほしい。	
				・石清水八幡宮が八幡市にあることが知られていない。	
		② 自然と歴史と文化が織りなす「出逢いの物語」観光の推進	・八幡市駅近くの男山、三川合流域、旧街道等を活かし「歩く観光」をテーマにしては。	・さくらであい館の活用を。	・石清水八幡宮を活かした取組がみられない(13件)
			・サイクリングロード、さくらであい館を活かし、「サイクリングの街」もテーマにしては。	・観光でお金を稼ぐ観点がほしい。	・観光を通じた産業活性化がみられない(9件)
			・観光客数や消費額等の実態を調査し、「観幸で稼ぐ」計画を立案するべき。	・八幡市駅付近の整備が必要。安居橋付近の古いまちなみが活用できないか。	・観光客が増えていない(5件)
			・八幡市駅は観光資源を有する市の玄関口として心もとない状態。駅周辺を含め提供できるコンテンツからあり方を考える必要がある。イメージと事業採算性を踏まえた整備を検討することも重要。	・イベントをしてほしい。	・八幡市駅前の整備が必要である(10件)
・八幡市駅周辺整備については、駅高架化や駅北整備(観光バス対応駐車場や大山崎町・金命題地区へのバスターミナル、農産物直売所、背割堤への直通路など)を立案し市民の賛同を得れば、駅南側開発の手掛かりとなるのではないか。			・観光バスの駐車場の確保をすべき。	・八幡市駅周辺の商業が活性化していない(22件)	
・物語性のある市伝説をアニメ化、TVドラマ化してはどうか。			・観光ツアーとのタイアップを。		
・正規観光ガイド以外に、「まちかど案内人」を市民から募り、道案内や地元の生活情報の提供、外国人への対応を行ってもらってはどうか。			・飲食施設、土産物店、売店、宿泊施設、案内板の整備が必要。		
・イベント会場や観光案内所等でサンプリング調査によって成果指標にできないか。	・山頂に行くのが大変。男山への道路の整備を。				
・八幡宮から離れた市内数カ所に観光バス用駐車場を設け、歩ける観光ルート作りをしてほしい。	・初詣と桜のシーズン以外は観光客が少ない。				
・観光まちづくりに市民をどう巻き込むかも大事。					
・広域観光の観点から、新名神の開通に伴う効果に分かる指標も加えられないか。また、八幡京田辺JCT・ICの活用も検討すべき。					
・民間事業者と連携したプロモーション活動を検討すべき。SNSも有用。					
・日本茶のインストラクターをうまく活用し、茶文化の発信・普及を図ってはどうか。					

総合計画審議会委員の意見・市民懇談会等での市民の意見のまとめ

章	節	施策	審議会委員の意見	グループインタビュー(25～44歳対象)・市民懇談会での市民の意見	市民アンケートで「課題」として挙げられた意見(5件以上のもの)
第5章 しなやかに発展する「活力のまちやわた」	第1節 活力の担い手育成	① 商工業の振興		・おいしい飲食店やおしゃれな店がほしい。商店街を活性化してほしい。商業施設の整備をしてほしい。	・商業が活性化していない(5件)
				・シェアオフィスを設けたり、起業への支援を充実し、起業したい人の移住を促進してはどうか。	・駅周辺の商業が活性化していない(32件)
				・1階を店舗に、2階を居住スペースにする戸建が集まれば、そうした生活スタイルを好む人が集まってくるのではないか。	・八幡市駅周辺の商業が活性化していない(22件)※再掲
				・橋本駅の周辺にスーパーがなく不便である。	・地元の商店に活気がない(10件)、身近で買い物ができず不便である(5件)
					・橋本駅周辺での買い物不便である(9件)
					・男山団地の商業が活性化していない(9件)
		② 農業の振興		・農業を活性化させてほしい。有害鳥獣の駆除が課題。	・若い農業の担い手が減っている(5件)
				・野菜の無人販売が良い。	・農地が減っている(5件)
	第2節 活力の基盤整備	① 企業立地の推進		・働く場の確保が必要。働く場所を増やしてほしい。	・企業の立地が進んでいない(9件)
				・娯楽施設を誘致してほしい。	
				・郵便局を誘致してほしい。	
		② 人・物の流れをつくる基盤の整備		・新名神が開通し期待している。活用を。	・山手幹線の交通渋滞を解消してほしい(14件)、交通渋滞を解消してほしい(10件)
				・渋滞を緩和してほしい。渋滞解消のための道路拡幅をしてほしい。通勤で高速道路を使えるのが利点。	・狭い道路が多い(11件)
				・八幡市駅や橋本駅を整備してほしい。交通アクセスの良さの活用を。	・八幡市駅前の整備が必要である(10件)※再掲
				・橋本駅と駅周辺の整備が必要である(7件)	
				・国道1号線に歩道を整備してほしい(5件)	
			・中心となる市街地のイメージがわからない(5件)		

総合計画審議会委員の意見・市民懇談会等での市民の意見のまとめ

章	節	施策	審議会委員の意見	グループインタビュー(25～44歳対象)・市民懇談会での市民の意見	市民アンケートで「課題」として挙げられた意見(5件以上のもの)	
第6章 安心・安全な「持続可能なまちやわた」	展第1節 環境と発	① 環境にやさしい暮らしの創出		・静かで空気おいしいので、美しいまちであってほしい。歩道・道路を美しく保ってほしい。	・ごみのポイ捨てがみられる(6件)	
				・野良猫対策が必要。また、ペットのマナーが悪い。	・ごみの分別ルールが守られていない(6件)	
			・夜にバイク等の爆音が聞こえる。	・騒音で困っている(5件)		
	② 資源の循環利用		・プラスチックごみの収集が隔週1回で少ない。回数を増やしてほしい。			
	第2節 安全・安心	① 地域ぐるみでの防犯・交通安全対策の推進		・治安が改善されているのに市民の不安が解消されていないことの分析が必要。	・治安のよいまちであってほしい。交番の設置をしてほしい。	・犯罪が発生している(19件)
					・防犯教育が必要。子どもの登下校の見守りが必要。	・詐欺やトラブルが発生している(6件)
						・住宅地での交通量が多く危険である(6件)
						・交通事故が発生している(5件)
						・夜中の車やバイクの音がうるさい(5件)
				・橋本駅周辺の道が暗く、夜道を歩くのが不安。不審者が出ることもある。	・駐車違反がみられる(5件)	
	② 自助・互助・共助・公助による防災・減災対策の推進		・避難先をわかりやすくしてほしい。防災倉庫を整備してほしい。	・大雨で浸水しないようにしてほしい(6件)		
			・夜の防犯パトロールや防災無線でのお知らせで安心できる。			
			・災害に強いまちであってほしい。水害対策が重要。			
	③ 火災予防の推進と迅速な消火活動		・消防署の分署を整備してほしい。			
	第3節 公共施設・インフラ施設の適正管理	① 生活都市としての魅力の向上		・男山団地の周辺に戸建住宅が広がっているので、八幡市の中で団地→戸建→団地などのように移り住んで循環するような仕組みをつくりたい。	・広い間取りの家があるとよい。エレベーターを整備してほしい。	・空き家対策が必要である(7件)
					・大都市に近くて便利なのに家賃が安くてよい。(※下げてほしいという意見もある)	
					・若い世代が暮らしやすいまちにしてほしい。若い世代の転入促進・転出抑制が必要。若者を増やすイベントをしてはどうか。新婚世帯に対する経済的支援がほしい。ひとり暮らしの人でも住みやすい地域をめざせば、その後カップルになるかも。	
				・空き家対策が必要。改修して住めるようにできないか。看板の規制等街並みの整備が必要。		
				・橋本地域の賃貸物件はプロパンガスが多く、都市ガスの物件を探すと大変。		
				・人を呼び込むには医療機関、就学前施設、小中学校が近くにあることが重要。近隣に便利なまちが多いので転出しやすく、八幡に拠点を置くことの強みのPRが必要。		
② 公共施設の適正管理とインフラ施設の更新・耐震化・長寿命化			・道路の整備をしてほしい。	・歩道の段差を解消してほしい(22件)、歩道を整備してほしい(11件)※再掲		
			・廃校を活用してほしい。	・自転車道を整備してほしい(7件)※再掲		
				・水道料金が安い(5件)		
第4節 市役所の体制強化	① 市民と行政とのコミュニケーション推進		・情報発信力を強化すべき。	・市民と行政のコミュニケーションを活発に。住民主体の市政推進を。	・行政の成果がわからない(12件)、行政についての情報提供を充実させてほしい(11件)	
			・サービスを市民が求めるという関係でなく、市民が自ら当事者意識を持ってまちを盛り上げるための仕掛けをし、それに行政が応える関係に変わっていく必要がある。	・市役所の情報があまり入ってこない。	・4次総計5-4「情報通信」のめざす姿【情報通信技術を活用した行政コストの削減と市民サービス向上が図られているとともに、情報通信技術の正しい使い方が普及し安全で快適な情報化社会が実現している】が実現していない(6件)	
	② 戦略的な経営手法の確立		・独自の政策で他市にない施策を打ち出してほしい。また、行政サービスの充実を。			
	③ 意欲と能力にあふれた組織と職員づくり		・人材の募集方法を工夫すべき。市役所の窓口対応は良い。	・職員の育成が必要である(5件)		
④ 財政の健全化			・公共料金が安い。	・財政が健全ではないように思われる(5件)		
				・無駄の排除を徹底してほしい(7件)、職員数が多すぎる(7件)		
				・税金が高い(5件)		

総合計画審議会委員の意見・市民懇談会等での市民の意見のまとめ

章	節	施策	審議会委員の意見	グループインタビュー(25～44歳対象)・市民懇談会での市民の意見	市民アンケートで「課題」として挙げられた意見 (5件以上のもの)
		計画全体・あり方について	<ul style="list-style-type: none"> ・主な取組を市民感覚で分かりやすい具体的なものとしてほしい。 		
			<ul style="list-style-type: none"> ・6つの基本目標を串刺しにして統合化する大きな目標が必要。その1つに市民参加がある。市民を動機付けるインセンティブを市民の立場で考えるべき。また、全体のテーマとして、市民に理解してもらいやすい、総合的な社会をアピールするようなものを設定すべき。 		
			<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少にいかに対応していくのかということを基軸にした総合計画とする必要がある。財政の問題や高齢者社会への対応の取組を充実すべき。 		
			<ul style="list-style-type: none"> ・将来像から市民の実感につながるような指標を設定し、計画の綿密な進行管理を行って可視化すべき。 		
			<ul style="list-style-type: none"> ・総合計画は骨太のフレームのみとし、細かい目標は部門別計画に委ねては。 		
			<ul style="list-style-type: none"> ・「元気」が出る、「元気」がある街にするという原点をもって考えるべき。広報戦略をプロに任せるのも良いのではないか。 		
			<ul style="list-style-type: none"> ・めざす姿の表現として「(例)増やします」とするのか、「(例)増えています」とするのか、検討が必要。 		
			<ul style="list-style-type: none"> ・「健幸」「観幸」など「幸」という字を多く使っており、ここを強いメッセージとして大きな目標を掲げていくのが良いのではないか。 		
			<ul style="list-style-type: none"> ・市が地域性の異なる4つほどのブロックに分かれていることから、各地域の特徴をどう生かしてどう利用していくのかという視点を盛り込むべき。 		
			<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの意識の向上や教育は全体に関わる話であり、表現方法を検討すべき。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・指標は「誰が主体なのか」という視点を踏まえて設定すべき。 			